

高原

雨が降り続けている

白樺の幹を伝って流れ落ちる水

即興的な生の呻きまでを吸い込む

緑なす苔の絨毯

(ぱしぱしと雨粒を受けては弾く熊笹の葉)

かつて訪れた際の孤独感に代わり、今は

持て余すほど空虚な存在感だけがある

死が近づいていることの意味は

己にとってではない場所へ移動した

共同体の中にあること

ただ生き競い合うこと

美しいものを発見すること

共鳴する波長を感じることに

創造すること

傷をつけてみることに

それらへありふれた生活の

ほんの一コマの出来事に過ぎない

そこでしかあり得ぬものなどない

そうでしかあり得ぬものなどない

冷たい大気と雨の滴が体を包み
静かな苦痛を呼び起こす

白い雲に煙る谷あいの向こう——
そこで体を温めることが必要だ

(緑を鮮やかにする)

(2011.5.29)